

# 遠距離現在

## Universal / Remote

2023年10月7日(土) – 12月17日(日)

熊本市現代美術館



展示風景:「ヒト・シュタイエル」ノイエ・ベルリナー・クンストフェライン (n.b.k.)、2019年。  
《ミッション完了:ペランシージ》2019年、ビデオ・インスタレーション(47分23秒)。ジョルジ・ガゴ・ガゴシツェ、ヒト・シュタイエル、ミロス・トラキロヴィチの共同制作。

Courtesy of the artists; Neuer Berliner Kunstverein, Berlin; Andrew Kreps Gallery, New York; Esther Schipper, Berlin.

Photo © Neuer Berliner Kunstverein (n.b.k.) / Jens Ziehe

問い合わせ

熊本市現代美術館 学芸担当・池澤 広報担当・里村

〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 びふれす熊日会館 3F

TEL : 096-278-7500 Email : gamadas@camk.or.jp

このたび熊本市現代美術館では、パンデミックをきっかけに考えるようになった社会の在り方、その中の私たちの暮らしや労働など、様々な事象を現代美術を通して考察する展覧会「遠距離現在 Universal / Remote」を開催します。つきましては本展について広くご紹介いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 企画概要

コロナ禍の日常生活の中で私たちが感じるようになった、ソーシャル・ディスタンスによる緊張感、医療不足、より不安定となった雇用など、社会／経済全般における諸問題は、決して今に始まったことではありません。むしろ、ウイルスと同様に、パンデミックという状況によってよりはっきりと明るみに出た、世界各地の人々が同時に共有する問題と言えるでしょう。人、資本、情報が世界規模で移動する 20 世紀後半以降のこれまでの社会は、2010 年代より本格化したスマートデバイスの普及とともに、オーバーツーリズム、生産コストと環境負担の途上国への転嫁、情報格差など、それぞれのグローバルな移動に伴う問題を抱えたまま 2020 年を迎えました。そして、同じく国境のないパンデミックの発生により、人の移動には不意のストップがかかったものの、資本と情報の移動が止まる気配はありません。かえって、資本や情報の本当の姿が、垣間見えているようにも思えます。豊かさと貧しさ。強さと弱さ。私たちの世界のいびつな姿はますます露骨に、あらわになるようです。

展覧会タイトル「遠距離現在」は、ソーシャル・ディスタンスや非対面コミュニケーションといったコロナ禍社会の条件はもちろんのこと、資本と情報が世界規模で移動する今世紀の状況をふまえたものでもあります。展示予定作品の多くは 2020 年以前のものですが、監視システムの過剰や精密なテクノロジーのもたらす滑稽さ、また人間の深い孤独を感じさせる作品群は、今の時代、あるいはこれからのポストコロナ時代の世界と真摯に向き合っているようにも見えます。本展は、全世界（Pan- [全 ..., 汎 ... の意]）の規模と、非対面の遠隔（Remote-）という二つの視点から、グローバル資本主義やデジタル化社会といった現代アートにおける従来のテーマを新たに捉えなおすものです。1. 「pan- の規模で拡大し続ける社会」、2. 「remote- 化する個人」の構成からなる本展は、このような社会的条件が形成されてきた今世紀の社会の在り方について取り組んできた作品をご紹介します。

---

### 問い合わせ

熊本市現代美術館 学芸担当・池澤 広報担当・里村  
〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 びぶれす熊日会館 3F  
TEL : 096-278-7500 Email : gamadas@camk.or.jp

## 展示構成

### 1. 「pan-」の規模で拡大し続ける社会

感染を防ぎ、人流を抑制するための国家権力の強化と監視システムの容認という問題は、それなりの成果を上げながらも、同時にポストコロナ社会の大きな課題として残りました。人々は、かつて経験しなかったほどの、国家の力と国民の自由のバランス感覚を試されているとも言えます。しかし資本と情報の移動は、それと関係なく加速を続け、人々を煽り続けるでしょう。近年のデジタル通貨導入の動きや、ブロックチェーンを基盤とする NFT（非代替性トークン）経済の過熱もまた、遠隔でも社会が機能し、拡大し続けるための仕組みでもあります。このような資本と情報の問題意識に着眼した作品をとりあげます。

### 2. 「remote-」化する個人

コロナ禍の間もこのグローバル社会は世界規模で拡大を続けます。しかし不思議なことに、逆説的に、個人のリモート化は進行してしまいます。オンラインで個人と個人が結びつき、家を出ずして国境をまたぐことは、もはや当たり前のことになっています。コロナ禍がリモート化を加速しましたが、今後も一層、地理的な距離感は消滅していくでしょう。縁もない、見ることも実際に赴くこともない世界へ向けて黙々と労働する姿は、どこか孤独で、底抜けの寂しさを感じさせます。それは、人間の心に大きな影響を与えるのではないのでしょうか。「非接触」を前提に「遠隔化」される個人の働き方と居住について考えます。

## 出品作家

井田大介 Daisuke Ida

徐冰（シュ・ビン） Xu Bing

トレヴァー・パグレン Trevor Paglen

ヒト・シュタイエル Hito Steyerl

地主麻衣子 Maiko Jinushi

ティナ・エングホフ Tina Enghoff

チャ・ジェミン Jeamin Cha

エヴァン・ロス Evan Roth

木浦奈津子 Natsuko Kiura

---

### 問い合わせ

熊本市現代美術館 学芸担当・池澤 広報担当・里村  
〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 びぶれす熊日会館 3F  
TEL : 096-278-7500 Email : gamadas@camk.or.jp

## 井田大介 Daisuke Ida

1987年鳥取県生まれ、東京在住。2015年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。彫刻という表現形式を問いながら、彫刻・映像・3DCGなど多様なメディアを用いて、目には見えない現代の社会の構造や、そこで生きる人々の意識や欲望を視覚化している。2016年からは、世界中の人々がインターネット上にアップロードしている匿名的な画像を素材として、インターネット以降のモノや身体の在り方を彫刻する「Photo Sculpture」を継続的に制作している。



井田大介 《誰が為に鐘は鳴る》2021年、  
シングルチャンネル・ビデオ（ループ）  
Courtesy of the artist.

## 徐冰（シュ・ビン） Xu Bing

1955年中国、重慶生まれ。1987年北京の中央美術学院版画専攻の修士課程修了。ニューヨークと北京を拠点に活動している。実在しない「偽漢字」や漢字のように見える英文「新英文書法」の創作、絵文字と記号のみで書かれた小説「地書」、廃材を用いたインスタレーション作品などで知られている。本展では徐の初の映像作品《とんぼの眼》（2017）を上映する。



徐冰（シュ・ビン）《とんぼの眼》2017年、ビデオ、ライブ配信サイトからダウンロードした監視カメラ映像（81分）  
Courtesy of the artist.

### 問い合わせ

熊本市現代美術館 学芸担当・池澤 広報担当・里村  
〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 びぶれす熊日会館 3F  
TEL : 096-278-7500 Email : gamadas@camk.or.jp

## トレヴァー・パグレン Trevor Paglen

1974年アメリカ、メリーランド州生まれ。ベルリンとニューヨークを拠点に活動。アート・インスティテュート・オブ・シカゴで修士号を、カリフォルニア大学バークレー校で地理学の博士号を取得。地理情報と軍事機密、マシンビジョン、監視と通信システム、AIによる自動生成イメージなどをテーマに、写真、映像、立体作品を制作している。



トレヴァー・パグレン《米国家安全保障局 (NSA) が盗聴している光ファイバーケーブルの上陸地点、米国ニューヨーク州マスティックビーチ》2015年、Cプリント、121.9×152.4 cm

© Trevor Paglen, Courtesy of the artist, Altman Siegel, San Francisco, and Pace Gallery.

## ヒト・シュタイエル Hito Steyerl

1966年ドイツ、ミュンヘン生まれ、ベルリン在住。日本映画大学とミュンヘンテレビ映画大学でドキュメンタリー映画を学び、2003年ウィーン芸術アカデミーで哲学の博士号を取得した。デジタル技術やグローバル資本主義といった社会的条件の中のイメージの生産と消費に関する映像作品を制作。2010年代からはe-fluxを中心に著述活動を続けている。日本では『デューティーフリー・アート：課されるものなき芸術 星を覆う内戦時代のアート』（2021年）が近年刊行。



展示風景：「ヒト・シュタイエル」ノイエ・ベルリナー・クンストフェライン (n.b.k.)、2019年。

《ミッション完了：ペランシージ》2019年、ヴィデオ・インスタレーション（47分23秒）。ジョルジ・ガゴ・ガゴシツェ、ヒト・シュタイエル、ミロス・トラキロヴィチの共同制作。

Courtesy of the artists; Neuer Berliner Kunstverein, Berlin; Andrew Kreps Gallery, New York; Esther Schipper, Berlin.

Photo © Neuer Berliner Kunstverein (n.b.k.) / Jens Ziehe

### 問い合わせ

熊本市現代美術館 学芸担当・池澤 広報担当・里村

〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 びぶれす熊日会館 3F

TEL : 096-278-7500 Email : gamadas@camk.or.jp

## 地主麻衣子 Maiko Jinushi

1984年神奈川県生まれ、東京在住。多摩美術大学大学院絵画専攻修了。ヤン・ファン・エイク・アカデミーのレジデンスプログラムに参加。映像、インスタレーション、パフォーマンス、テキストなどを総合的に組み合わせて作品を制作する。近年の『葬いとカメラ』（2021年）には、死と葬いを映像で記録することに関して文化人類学者金セツピョルと行った対話がおさめられている。



地主麻衣子《遠いデュエット》2016年、HDビデオ（40分）  
© Maiko Jinushi, Courtesy of HAGIWARA PROJECTS.

## ティナ・エングホフ Tina Enghoff

1957年デンマーク生まれ、コペンハーゲン在住。ニューヨークのインターナショナル・センター・オブ・フォトグラフィー（ICP）で写真を学ぶ。記録写真における表象と可視性の問題を扱う作品を制作する。主に北欧における植民地主義や福祉国家の制度的暴力、アーカイブの権力構造といったテーマに関心を持ち、コミュニティへの参加や共同制作、アート・アクティヴィズムを中心としたプロジェクトを実践する。



ティナ・エングホフ《Possible Relatives / 男性、1954年生まれ、  
自宅にて死去、2003年2月14日発見》2004年、アーカイバル  
ピグメントプリント、120×160×5 cm  
Courtesy of the artist.

### 問い合わせ

熊本市現代美術館 学芸担当・池澤 広報担当・里村  
〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 びぶれす熊日会館 3F  
TEL : 096-278-7500 Email : gamadas@camk.or.jp

## チャ・ジェミン Jeamin Cha

1986年韓国生まれ、ソウル在住。2010年に韓国芸術総合学校美術学部を卒業後、2011年にロンドンのチェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザインで修士号を取得。映像、パフォーマンス、インスタレーションと執筆活動まで、多岐にわたる媒体で制作を続けている。チャの作品は、身体と心理や感情との関係性を扱い、表現しがたい経験を持つ個人に焦点を当てる。また、技術の進歩によって縮小していく未知の領域を保存することに関心を持っている。



チャ・ジェミン《迷宮とクロマキー》2013年、シングルチャンネル・HDビデオ（15分、カラー、サウンド）  
Courtesy of the artist.

## エヴァン・ロス Evan Roth

1978年アメリカ生まれ、ベルリンを拠点に活動。メリーランド大学で建築学を学び、パーソンズ・スクール・オブ・デザインでデザイン&テクノロジーを専攻し修士号を取得。絵画や彫刻からウェブサイトまで多様なメディアにおける芸術制作に、ハッカーの哲学を応用する。彼が共同開発に参加した「The EyeWriter」は、身体が不自由なアーティストが眼球の動きのみで絵が描けるよう開発した装置で、第14回メディアアート芸術祭（2009年）で優秀賞を受賞した。



展示風景：「あなたが生まれてから」ジャクソンビル現代美術館、2019年。

エヴァン・ロス《あなたが生まれてから》2023年、壁紙、サイズ可変。

Courtesy of the MOCA Jacksonville. Photo by Doug Eng.

### 問い合わせ

熊本市現代美術館 学芸担当・池澤 広報担当・里村  
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 びぶれす熊日会館3F  
TEL：096-278-7500 Email：gamadas@camk.or.jp

## 木浦奈津子 Natsuko Kiura

1985 年鹿児島県生まれ、鹿児島市在住。2010 年尾道市立大学大学院美術研究科油画専攻修了。一貫して風景、特に日常の景色の油絵を描き続けている。カメラで捉えた近郊の風景をもとに描かれる彼女の作品は、単純で抽象的でありながらも、見たときの風景そのままを保存する不思議な魅力をもつ。複数の小さいキャンバスを壁全面に配置し、絵画インスタレーションとして構成する。2019 年第 45 回鹿児島市春の新人賞受賞。VOCA 展 2022 に出品。



木浦奈津子《こうえん》2021 年、油彩／キャンバス、97.0×145.5 cm  
Courtesy of the artist. Photo © EUREKA.

本展には、小説家・福永信が展覧会カタログに書き下ろし掌篇9点を寄せるほか、メインビジュアル、カタログをはじめ各種宣伝美術をグラフィックデザイナー・石塚俊が手がけます。

## 福永信 Shin Fukunaga

小説家。1972 年生まれ。著書に『星座から見た地球』、『—————』、『実在の娘達』など。編著として『こんにちは美術』、『小説の家』などがある。

## 石塚俊 Shun Ishizuka

グラフィックデザイナー。1983 年生まれ。現代美術や舞台芸術、音楽、ファッションなどの分野において、宣伝美術をはじめ書籍装丁やディスプレイデザインに取り組む。2019 年より自身のスタジオ／プロジェクトスペース「ピープル」を運営。2023 年、JAGDA 新人賞受賞。

---

### 問い合わせ

熊本市現代美術館 学芸担当・池澤 広報担当・里村  
〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 びぶれす熊日会館 3F  
TEL : 096-278-7500 Email : gamadas@camk.or.jp

## 開催概要

タイトル [日] : 遠距離現在 Universal / Remote

タイトル [英] : Universal / Remote

会期 : 2023 年 10 月 7 日 (土)-12 月 17 日 (日)

休館日 : 火曜日

開館時間 : 10:00-20:00 (入場は 19:30 まで)

会場 : 熊本市現代美術館

観覧料 : 一般 : 1,100 (900) 円

シニア (65 歳以上) : 900 (700) 円

学生 (高校生以上) : 600 (500) 円

中学生以下 : 無料

\* ( ) 内は前売 / 20 名以上の団体 / 電車・バス 1 日乗車券等をご提示の方

\* 各種障害者手帳等をご提示の方とその付き添い 1 名は無料

\* 10 月 12 日 (木) は開館記念日のため入場無料

主催 : 熊本市現代美術館 (熊本市、公益財団法人熊本市美術文化振興財団)、  
熊本日新聞社 [予定]

企画協力 : 国立新美術館

## 巡回

### 国立新美術館

会期 : 2024 年 3 月 6 日 (水)-6 月 3 日 (月)

会場 : 国立新美術館 企画展示室 1E

企画・担当 : 尹 志慧 (国立新美術館 特定研究員)

### 広島市現代美術館 [予定]

会期 : 2024 年 夏 [検討中]

---

### 問い合わせ

熊本市現代美術館 学芸担当・池澤 広報担当・里村  
〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 びぶれす熊日会館 3F  
TEL : 096-278-7500 Email : gamadas@camk.or.jp

## 広報用画像

広報用画像をご希望の方は下記内容をメールでお知らせください。

広報担当からご連絡いたします。

- 1 掲載媒体
- 2 希望画像 No.
- 3 ご担当者様のお名前、ご連絡先（メールアドレスなど）

### 【使用に際しての注意事項】

※使用目的は、本展のご紹介に限ります。本展終了後の使用は出来ません。

ご使用後は（掲載、未掲載に関わらず）画像データを削除してください。

第三者への譲渡は禁止します。

※作品キャプション・クレジットを明記してください。

※トリミング、部分使用、文字等を重ねての使用はできません。

※掲載紙・誌、同録 DVD 等を一部寄贈してください。（WEB 媒体の場合は URL をお知らせください）



1



2



3



4



5



6

1 | 井田大介《誰が為に鐘は鳴る》2021年 Courtesy of the artist.

2 | 徐冰（シュ・ビン）《とんぼの眼》2017年 Courtesy of the artist.

3 | トレヴァー・バグレン《米国家安全保障局 (NSA) が盗聴している光ファイバーケーブルの上陸地点、米国ニューヨーク州マスティックビーチ》2015年  
© Trevor Paglen, Courtesy of the artist, Altman Siegel, San Francisco, and Pace Gallery.

4 | 展示風景：「ヒト・シュタイエル」ノイエ・ベルリナー・クンストフェライン (n.b.k.)、2019年。《ミッション完了：ペランシージ》2019年

ジョルジ・ガゴ・ガゴシツェ、ヒト・シュタイエル、ミロス・トラキロヴィチの共同制作。Courtesy of the artists; Neuer Berliner Kunstverein, Berlin; Andrew Kreps Gallery, New York; Esther Schipper, Berlin. Photo © Neuer Berliner Kunstverein (n.b.k.) / Jens Ziehe

5 | 地主麻衣子《遠いデュエット》2016年 © Maiko Jinushi, Courtesy of HAGIWARA PROJECTS.

6 | ティナ・エングホフ《Possible Relatives / 男性、1954年生まれ、自宅にて死去、2003年2月14日発見》2004年 Courtesy of the artist.

### 問い合わせ

熊本市現代美術館 学芸担当・池澤 広報担当・里村

〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 びぶれす熊日会館 3F

TEL : 096-278-7500 Email : gamadas@camk.or.jp